

第9回登別市立図書館整備検討委員会 議事録要旨

- 日 時：令和7年3月21日（金）午後6時00分～午後8時00分
- 場 所：登別市市民会館 中ホール
- 出席状況：委員 14名 （欠席） 3名
行政 6名 教育部部長
教育部参与
教育部次長
教育部図書館長
教育部図書館主査
総務部企画調整グループ総括主幹
傍聴 4名

1 開会

（1）本日の協議テーマ（2つ）について説明（図書館長）

ア 登別市立図書館に必要な機能について

- a 前回事務局が例示した他に、どのような機能が必要と考えるか。
- b 前回例示した機能について、現在の実現状況を一覧化した資料も事前配付しているので参考としていただきたい。

イ 各移転候補施設のメリットとデメリットについて

（2）委員から提出された動議について

ア 本日、委員から委員長宛に動議が出されたので紹介する。（委員長）

【動議について要旨】

今までの会議は、客観的な考えよりも主観的な考え方にとらわれ、未だ結論に至っていない。本日の協議内容のまま進めると、更に混乱した会議が想定されるので動議を提出する。協議開始前に検討いただくよう要望する。

- a 登別市にとって委員会の設定目的と存在意義の見解
- b 登別市は各委員の立ち位置をどのように設定しているのか
- c 登別市は委員会にどのような結論を期待しているのか

イ 他の委員からの意見

- a 私も意見書を提出している。それに対して意見交換をすることにより内容が共有できると思っていたが、それもなく今日に至っている。私の意見は動議と被らないかもしれないが、この限りない議論をいつまでやるのか。図書館移転など建物の話ではなく、本質的に図書館をどうするのかについての話し合いが今までされてこなかった。こんなことをやっていて良いのか疑問に思う。
- b 団体から選出された者として、呼ばれた経緯は理解したつもりで来ている。基本的には、今の厳しい状況の図書館を移す。その時に良い図書館にしよう。その議論をするために、私達は色々な立場で呼ばれているという認識なので、

議論自体が何のために開かれているか分からない委員会だとは思っていない。色々それがもう1回確認されなければ議論が進まないのであれば、団体から選出された者として一言でも発言して良いのか迷い、各団体を背負っている方々の立場は苦しいのでは。

- c 最初の段階でも申し上げているが、委員会は行政側が市民に意見を問いかけて、委員で協議したものを返答するものだと思っているが、行政と委員の行き来ばかりとなっている。なので、今回行政側から動議について話がされたら、それに対して続くとまた同じになるので、それ以上は何ものでもないというのを確認したら、動議の話を進めて良いと思う。

ウ 行政側からの説明（教育部局）

- a この始まりは、中央地区まちづくり協議会から中央地区ショッピングセンターに図書館を移転してはどうかと提言を受けたことが発端で、それについて意見をお聞きしたく皆様にお集まりいただいた。だが、初回から反対意見が多かったことから、現施設を維持か移転かについて議論いただき、現状は難しいということで移転という結論をいただいた。前回からは、どのような図書館を希望されるかお話いただき、最終的に移転先をどうするかと進めているところである。動議について、(a)「委員会の設定目的と存在意義の見解」は、今ずっと協議いただいているとおりであり、このことについて意見をいただきたいと思っている。存在意義としては、皆様のお気持ちをお聞かせいただきたいというところで進んでおり、ここまで進んでいるなと考えている。動議(b)「各委員の立ち位置をどのように設定しているか」は、図書館協議会の委員、各団体から推薦の方、公募の方、立ち位置は皆さんそれぞれの考えで結構だと思っている。どういった立ち位置であっても、それぞれの意見をいただきたくこれまで進めてきている。動議(c)「委員会にどのような結論を期待しているのか」は、ある程度合意が図られることが一番良いと思うが、立場も考えも違うので、全てが一致することを期待してはいけないのかなと思っている。その中で、できることを取捨選択し、今よりベターな図書館になるよう意見をいただき、ある程度網羅できるようなものに作り上げたいと考えている。

- b (イのaについて) 図書館どうあるべきかの話は、行きつ戻りつとなってしまうので、今はどんな図書館が求められるか意見をお聞かせいただいているところである。それを受けて、できるだけ実現できるよう進めていきたいと思っている。

エ まとめ

- a (委員長) 動議を出された委員へ、今の行政のお話でいかがか。
→ (委員) 話の趣旨は了解した。追ってまた新たな質問が出ると思うが、その時はよろしく願いたい。

(3) その他委員からの意見（下線部が行政側の回答）

- ア 今回配布された「移転先候補のメリット／デメリットについて」の資料を見てがっかりした。私も移転先候補を絞ると前回に回答したが、これは規模であり、

どのような図書館を作りたいかを一度も話していない。夢物語でも良いのではないか。コンビニのようなどこに行っても同じ図書館は作る意味がなく、登別だからという図書館を作らない限り新しくする意味がない。一度みんなで話したら良いのではないか。

→（市長部局）前回図書館長から、登別市立図書館の在るべき姿に関しては、めざすものという理念のようなものがまとめられている話はさせていただいた。それを実現するために、具体的な機能としてどのようなものが必要かというお話をしていただき、資料の配付が会議直前ということもあり本日も協議事項に設定したところであったが、この理解は違うのでしょうか。

イ 今までの話を聞いて最初の頃が分からなくなり、第1回目からの資料に目を通して見た。なんか違うと感じているのは、これは中央地区まちづくり委員会の話があり、本館も古くなり、この先どうしたら良いかというところからスタートしているはずである。今、登別市独自の図書館などの意見もあると思うが、そういう話は使う人達が作ってから運営の中で色々変えていけると思っている。箱物だから先にかたちを作って、ソフト面はその先にできる話だと思う。前回も移転先候補を絞り込むという話まできているので、絞って次の話に進まないと、いつまでたってもこのままではないか。

ウ そもそもの図書館の役割、図書館はなぜあるのかというところに響いていない。今、働いている図書館側から、こういう役割をもって仕事をしているんだという話を聞きたい。それがあって、地域にオリジナリティな機能を盛り込んで反映させることが本当の図書館作りだと思う。基本的な機能を知らないで枝葉になるような機能を考えていくことが正しいのか判断ができないと思うので、普段どういう思いで図書館の仕事をしているのか聞きたいというのがあるのではないか。

→（教育部局）図書館でどういう気持ちで仕事をしているかについて
実際図書館で仕事をしていて、子どもから高齢の方まで色々な方に来ていただいているが、子どもに関しては、楽しく絵本を読んだり親子で本に触れてもらう機会になってくれたら良いという思いでやっている。一般の方については、どなたでも、用事がなくても図書館を居場所として使っていただくような使い方もしてほしいと思っている。また、学習や調べ物などで資料を探しに来られることもあるので、解決の支援ができればという思いで情報提供や資料提供に努めていたり、個人の方の知識や技術を活用する場として使っていただきたいと思っていて、講座などで教えていただいたり、本の修理など支援ボランティアとして活躍していただけたらなと考えている。その他、登別に関する資料を保存して整理していく。これは大きな役割だと感じて日々仕事に携わっている。ひっくるめると、皆様に居場所となっていけるような図書館、そして、今まで図書館に来たことがない方にも図書館について知っていただきたいと考え本館で仕事をさせていただいている。

→（委員長）協議内容の1つ目に改めて入りたいと思う。必要な機能について、今までの積み残した話題も議論して良いという膨らみのある議題であるので、

了解いただきたいと思う。

- エ 話を折ってすいません。私達が求めているのは、図書館の理念とかめざすものの骨格にあるようなもの、公共図書館は何のためにあるんだろうとかの議論が前提としてないと、このテーマの立て方にも疑問がある。最初に一番間違っているのがボタンの掛け違いであり、まちづくりの方から話が来たからハレーションが起きている。この会議は行き先の分からない船に乗せられているイメージである。移転だけ決めれば良いのかという話も委員から出たことがあったが、せっかくこういう話がきたので、どうせやるなら、図書館とは何なのかという議論も併せて皆が理解して、根幹の話をしてから枝葉の議論が出て良いと思っている。

→（市長部局）先程、この整備検討委員会の位置付けの話を教育部局からさせていただいたが、図書館のあるべき姿、めざすものについては、登別市立図書館のめざすものというものが作られていて、そこで固まっている。その理念を実現するために、どういう機能が必要なのか、移転先はどこが良いのかを議論する整備検討委員会であり、理念の部分の根本的な議論というのは、この委員会の範疇には基本的に入っていないという認識である。

→（委員エ）ここにいるほとんどの人は図書館のこと分からない。

→（教育部局）色々な方が色々なふうに図書館を使ってもらってかまわないと思っている。図書館の本質を知らなくても、こういう図書館が良いという意見がほしいと思っている。

- オ 今まで図書館に勤めて思ったことは、この情報化社会で、知っている知らないでは結構生活が変わる。そういう情報を得るための場所で、まちで保障されている場所。その情報を得て、知恵なりを付けて社会に参画することでまちづくりにも。図書館の本来の機能みたいなのは、こういうことなのかと。一方的な意見の本だけではなく反対意見の本も含め比較対象したうえで自分の意見をまとめていくのが、図書館の基本的な役割だと思っている。公共性ということでまちのニーズを取り込むことも大事だと思うが、今はもう基本的な機能だけでは図書館は生き残っていけない。そこに地域性やオリジナリティをどう反映させるかだと思うので、地域の課題が何かというところから考えていけないといけないと思う。分館でもたくさんあれば良いかもしれないが、比較検討するための資料をある程度ストックさせるには中央館が必要だと思う。今後移転先の面積も大事だと思うし、それがあって初めて機能を考えることができると思う。

→（教育部局）機能というより、環境が整っていないのが問題である。

- カ エの委員の話で行き先の分からない船という話があったが、前段にまちづくり協議会の話があるので、ここまでたどり着かない船だとは思っていない。ただ、このまま際限なくたどり着かないと、自分の立場として降りなくてはいけないというところまで考え始めている。初めから、専門的に語る立場でなかったらこれほど議論に混ざれないのが分かっていたら乗っていなかったくらいである。行政側は、こういう気持ちを汲んでくれて議論を着実に進めているはずな

のに、この船を止めにかかっている乗組員がこれだけいる。一回島につけていただかないと乗り続けるのも厳しくなってくる。

→（市長部局）事務局としては、毎回一つ一つ議論を積み重ねるようなかたちでやりたいと思いテーマを設定させていただいていた。前々回は、移転を前提というのが決まり、前回は、一応2つの移転候補に絞りつつ議論を進めていこうというのが決まり、今回は、どちらの候補が良いのかというように、何とか議論を進めたいということでテーマを設定させていただいた。だが、こういう進め方が良いというのがあれば、言っていればそれに添ったかたちにもなると思う。決して、協議テーマを押しつけているのではないので、具体的にお示しいただければと思うが、いかがでしょうか。

→（委員 A）それであれば、聞いてほしいことが質問も含めてある。次回までに資料を作って話できると思うので時間を担保してほしい。例えば、今回の補助金がなかったら、行政は図書館をどうしていこうと考えていたのかどうしても聞きたい。

→（教育部局）補助金がなければ、1回目からお話ししているところであるが図書館の建て替えは少なくとも20年は無理である。補助金があれば、今よりは少し良いものができるのではという期待である。もし、補助金がなければ、だましだまし続けるしかないのかなというところである。今後は、新庁舎等の借金返済が始まるので、申し訳ないがプラスアルファで図書館はできない。ただ、いずれ財政状況が落ち着いた段階で、何年後かは約束できないけれど新築にもっていきたいと考えている。その間どうするかということでお話進めているところでありご理解いただければと思う。

キ 委員からテーマを投げかけたいのだが、最初からこの会議には違和感があり、まちづくり協議会から、まちの活性化のためにアーニスに移転というのは、教育施設でありながら、そういう視点がまず最初にあがるというのが違和感がある。視点として欠落してと思うのが、実際に図書館に関わっている図書ボランティアや利用者の声をいただかないと、資料により意見を交わすのも難しい。今後の希望であるが、そういう資料もいただければと思う。

ク なぜこんなに噛み合わないか考えているが、最初にまちづくり協議会の提言を受けたあと、教育委員会は教育施設としての視点で揉んでいただきたかったし、2024年6月に提言を受けて、同年10月に図書館整備検討委員会が立ち上がるのは早急過ぎるのではないか。伊達市の事例では2年間揉んでいるし、市民アンケートや市民ミーティングにより市民の意見を聞いている下地があるので、私達がもめるの当然ではないか。登別市で意見交換会3回あったが、そこでの市民の意見が反映されてない。図書館協議会には、どうしておろしていただけなかったのか。どうして市民の意見を一つも聞かなかったのか。図書館に意見箱を置くなど図書館の中でできることでかまわない。そうでないと、市民の声を聞かず責任だけ負わされて苦しい。

→（教育部局）以前お話させていただいたが、この場で決めてくださいというわけではなく、教育委員会の中で決めたうえで、最終的には市議会に議案とし

て提出となるので、委員の方の議論が何か責任を追うということではないことはご理解いただきたいと思う。あと、これが新築で一から建てられるのであれば、何年もかけて話をする場面があっても良いと思うが、そうではないというところである。市民の意見を聞く場については、先にするのも手だが、移転でできることは限られてくるので、ある程度イメージ図ができあがった段階で行いたいと思っている。全くアンケートやパブリックコメントなどないわけではなく、先にもらうか後にもらうかの違いかと考えている。

→（委員 A）アンケートを成案してから投げかけることもあるが、日頃使ったり関心のある市民から素朴な意見を吸い上げるのも大事である。むしろ 2 回行ったらどうか。

→（委員ク）アンケートについて、私の方で独自に一つとらせていただいたので、次回配布したい。もう少し時間をかけて揉んでいただきたい。

→（市長部局）最初は目安の時期の話をしていたが、今はもう設定していないので、時間をかけて議論していただければと思う。市民の意見の反映の仕方については、今回行政だけで決めるのではなく、図書館協議会や公募の方などにも参加いただいて委員会を作ったというのも市民の意見を反映させる一つの手法だと思う。ここで議論をいただきつつ、図書館に目安箱など設置して意見をいただき併用して行う方法はあると思う。

→（委員ク）それを続けきて、未だ噛み合っていない。

→（市長部局）一応議論は積み上げてきていると思う。本館が厳しいということで移転を前提に。移転先ということで、まずはアーニスと幌別東小学校で議論をしていく。本日は、その両施設のメリット・デメリットの話。その前提で、何の機能が必要かはっきりしていなければ議論もできないので機能についてお話をというように都度テーマを設定させていただいたが、機能の部分で噛み合わないということであるか。なぜ、噛み合わないかお話いただければと思う。

→（委員ク）ですから、整備検討委員会を立ち上げるのが早急過ぎた。

→（市長部局）先程の伊達市の話であるが、新しい図書館を作ることが決まった後に中身を検討するための委員会だと思うが、登別市に関しては移転するかどうかを語る委員会であり、たまたま名前が一緒であるが、決して早くないと思ってる。

→（委員ク）機能の前の話である。委員が良い案を出すのが、財源がないなどの理由で消される。委員の意見を聞きたいと言っていたのなら、お金の話は先ではなくて、私達の案を出してから後にしてほしい。市長部局は補助金の話ばかりしている。

→（教育部局）財源の話は、市長部局ではなく教育部局でしている。現実的なことを考えないと、夢を語っていただくのも一つだと思うが、現実には本当に厳しい。案を潰されるとの話があるが、現実できることの中で具体的にお話いただきたいと思っている。補助金の話ばかりかもしれないが、補助金がなければできないのも事実である。

ケ 1 回目から、現本館を大切に使って、そして、何年後になるか分からないが、

ゆっくり図書館の望ましい在り方をそこで具現化しましょうと考えてきた。現在お金がない中、登別市の市政にとっても良い。動議が出て、その弾みで積み残した分が委員から出てきたが、今回は、協議前にまた話し合う時間を持たないといふだめではないか。

コ もう一回図書館協議会と行政で話し合っ、改めて呼んでいただくしかないのでは。どれだけ議論を重ねても、一番最初に何でそこで話してくれなかったのかという話しか聞こえてこない。決して、議論が違う方向で白熱しているとか、行政からの内容に不備があるとかではなく、我々が話し合いの真ん中にくる話がまだない。

サ コの意見にほぼ同意しているが、この整備検討委員会は、一端休会して仕切り直すべきだと提案するが、いかがか。

→（教育部局）図書館協議会であるが、館長の諮問機関であり自由な意見をいただく場ではないので、今回この整備検討委員会の中に図書館協議会の委員も一委員として入っていただいた経緯がある。この議論の最初のボタンの掛け違いという指摘もあるが、一步一步前進していると認識していた。今ここまで議論が進んで、機能や移転先という段階にきているので、そのやり方がどうこうと行きつ戻りつしても、これまた進まないのも事実である。現実的なところで議論いただきたいとは思っている。

シ （委員ク）先程の伊達市の委員会について説明不足であった。伊達市立図書館在り方検討委員会の提言書がある。次に伊達市立図書館運営協力会の提言がある。これは当市の登別市立図書館協議会にあたる。そして、最後に立ち上がったのが整備検討委員会。やはり、私達登別市立図書館協議会を一度はさまないと、ずっと同じだと思う。この伊達市の流れで一度いかないか。

ス 伊達市の話が出ているが、伊達は今回建設である。だから、それに向けて昔からの積み重ねで作った。登別は今回は建てられない。2、30年後でしようということで、それに向けて同じように検討を進められるとは思いますが、今やろうとしているのは、移転。機能や移転先について今日話をするはずであった。なので、伊達市と登別市のやり方は一緒にならないと思ってる。

2 閉会

（1）次回について（教育部局）

ア 今日の議論で、次回の会議をする前に、図書館協議会というかたちではないかもしれないが、協議会と事務局側で話をする機会は設けたいと思う。

イ 次回の日程は、改めて連絡させていただきたい。また、お話ししたいテーマがもしあれば出していただいたうえで、どう進めるか検討させていただきたい。

（2）委員からの確認

ア この委員で、団体から選出されている委員は、私見だけ述べて良いのか、それとも団体の意志を背負って会議に参加するスタンスであるかどうか確認したい。

→（教育部局）団体から選出された委員は、団体のご意見ということで発言い

ただきたい。

→（委員ア）団体にも役員が何人かいる中で、アーニス移転反対の数が多いはずなのに、違う意見という感じの雰囲気もあった。私見は私見で会議に出る権利としてあって良いと思うが、プラス団体を背負ってるのだから団体の意見もきちっと入れてほしいという気持ちがあり確認した。

→（委員 A）確認だが、それぞれ団体の方達と話をして、その方達の意見を反映させるということで良いか。

→（委員 B）うちは、話し合えていない。

→（教育部局）団体によっては、一任されているところもあるかと思うので、それぞれで結構だと思うし、団体の中でも、賛成や反対があると思うので、必ずしも全部を賛成にしてもってきてということではない。団体の考え方で結構だと思う。

→（委員 C）そういう考えされるのは、余計な話だと思う。

→（委員ア）いいえ。公募は好き勝手な意見が言えるが、団体は会議の結果をおろしてほしいし、自分の意見も言ってもかまわないおさえで、団体の意見を一切背負わないというのは厳しい。

→（委員 C）団体の了解とか、団体のものでないとだめかということを行っている。言いたくないが、自分の団体の中では、意見を聞いて会議にのぞんでいるが、本当はこんなこと言う必要もないし聞かれる必要もないと思う。

→（委員ア）団体の委員を任命するというのはどういうことなのかを教育委員会にただけである。

（２） 閉会（委員長）

以上